

令和5年度 第1回 播磨町上下水道運営委員会 議事概要

日 時	令和5年12月15日（金）14時～15時25分
場 所	播磨町役場 第二庁舎3階 会議室1
出席者	<p>【播磨町上下水道運営委員】</p> <p>竹川 宏子（学識経験者・兵庫大学現代ビジネス学部教授）（会長） 西口 泰平（使用者の代表・播磨町商工会（株）西口商店） 中村 まさみ（使用者の代表・播磨町連合婦人会会長） 宮尾 尚子（使用者の代表・播磨町消費者協会副会長） 吉川 俊行（使用者の代表・播磨町民生委員児童委員協議会会長） 藤田 一幸（使用者の代表・播磨町自治会連合会自治会長 OB）</p> <p>【事務局】</p> <p>藤原 崇雄（上下水道部長） 小林 勉（上下水道課長） 石見 竜哉（上下水道課経営担当課長） 草部 良倫（上下水道課下水道係長） 丸山 徹也（上下水道課経営係長）</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 上下水道部長あいさつ 3 委員及び事務局の紹介 4 会長及び職務代理の選出 5 議事（1）下水道の役割 （2）播磨町の下水道事業 （3）今後の課題 6 質疑応答 7 その他 今後のスケジュール 8 閉会

1 開会

2 部長あいさつ

(部長)

上下水道部長の藤原と申します。

この度は、播磨町上下水道運営委員会委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。

上下水道運営委員会では、料金や使用料について検討することを目的の一つにしておりまして、前回開催時には水道料金の改定についてご審議いただき、水道料金の改定案をとりまとめ、令和5年4月より新料金とさせていただきますところ です。

それからもう一つ重要な役割として、上下水道事業の整備状況や経営方針について、ご意見やご質問をいただくことで、今後の改善に活かしていくとともに、本委員会の資料や会議録を公開し、住民・企業の皆様にわかりやすく伝えていくことが重要と考えています。

上下水道は、あって当たり前のサービスで、普段あまり意識されていませんが、事故や災害でそのサービスが止まってしまうと住民生活・企業活動に多大な影響が生じます。

困難な状況であっても将来に渡って事業が継続できるようにすること、そして大規模な災害が起こっても被害を最小限に抑え、できるだけ早く復旧ができるようにしていくことが上下水道事業に与えられた使命だと考えております。

今年度は、下水道事業の経営戦略の見直しを行います。これからは災害に備えての施設整備や耐震化、それから老朽化対策が重点課題となります。

また、長期を見据えて、どのように財源を確保しておくか検討する必要があります。

これらの経営課題を明らかにし、投資と財源のバランスをどのように取っていくか方針を定めたものが経営戦略になります。

上下水道事業は、極めて困難な経営環境にあり、課題も山積しておりますが、委員皆様には、忌憚のないご意見をいただきまして、少しずつでも確実に課題を解決していけるよう実現性が高いものとし、できるだけ見ていただいた方にわかりやすい計画としてまとめたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

3 委員及び事務局の紹介

4 会長及び職務代理の選出

会長は、兵庫大学現代ビジネス学部教授 竹川 宏子（たけかわ ひろこ）様、職務代理者は、播磨町自治会連合会自治会長 OB 藤田 一幸（ふじた かずゆき）様に決定。

(会長)

会長に選出いただきましてありがとうございます。

播磨町さんでは、上水道の料金改定について会長を務めさせていただきました。料金改定

は実際に始まりました。しかし、下水道もあるということで、地元にある兵庫大学ということですので、町民の皆様には何か貢献したく、会長を務めさせていただければと思います。どうかよろしく願いいたします。

5 議事

議事（1）「下水道の役割」

（事務局）

資料3「令和5年度 播磨町上下水道運営委員会 第1回」と表示している資料をご覧ください。表紙に張り付けてあるのは、播磨町のデザインマンホールです。播磨町出身の偉人である新聞の父ジョセフ・ヒコをモチーフにしたデザインで、土山駅南口のバス停付近に実際に設置しているのと、この庁舎の入り口に展示してあります。委員の皆さまにお配りしているのが、このマンホールがデザインされた播磨町のマンホールカードです。マンホールカードとは、公益社団法人日本下水道協会が事務局となっている下水道プラットホームが行っている広報活動の一つで、各自治体と共同で作成し無料で配布しているものです。播磨町では令和元年から配布しており、これまでに、累計8,000名以上の方が播磨町のマンホールカードを受け取っておられ、北は北海道、南は沖縄県まで、日本全国から播磨町まで取りに来られています。

資料の説明に入る前に、今回の上下水道運営委員会の目的について説明いたします。

播磨町は、平成30年度に播磨町下水道事業経営戦略を策定しており、今回の上下水道運営委員会では、その改定が主な議題となります。経営戦略とは、下水道事業などの公営企業が将来にわたり安定的に事業を継続していくために策定する、中長期的な経営の基本計画になります。改定の趣旨としましては、平成30年度に播磨町下水道事業経営戦略を策定し、5年が経過しようとしている中で、前回策定以降新たに策定した「播磨町下水道ストックマネジメント計画」の反映や、社会情勢の変化に伴う財政計画の見直しなどを行うことが主な目的となっています。「下水道ストックマネジメント計画」とは、長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、施設の点検・調査、修繕・改善を実施し、施設全体を対象とした施設管理を最適化することを目的とした計画のことです。また、総務省からは、将来の収支見通しに係る試算精度を高めるなど、より質の高い計画とするよう令和7年度末までにすべての公営企業に対し経営戦略の改定が求められているところです。

前置きが長くなりましたが、それでは資料に沿って順に説明していきます。最初に、今日の委員会の流れや今後のスケジュールについてお伝えします。

1ページをご覧ください。

本日が第1回運営委員会となりますが、下水道と一言に言っても、その役割などについて

よくわからないこともあろうかと思しますので、まずは下水道の役割とは何か、といったことについて説明いたします。下水道の役割を説明したあと、播磨町の下水道事業がどういったものになっているのか、今後の課題は何か、といったことについて順に説明したいと思います。

第2回目の運営委員会は、来年2月下旬頃を予定しています。次回の運営委員会では、下水道事業経営戦略の改定案をお示しする予定です。今回の下水道事業経営戦略の改定については、上下水道運営委員会でいただいたご意見を反映し、パブリックコメントを実施した後に策定といった流れで考えています。

3ページをご覧ください。

下水道の役割について説明いたします。

下水道は、どういった役割を担っているか、ご存じでしょうか。一つ目は、みなさんもご存じのとおり、「公衆衛生の向上」です。

私たちは、日常生活を行う中で、必ず生活排水を出します。トイレ、キッチン、お風呂などで使った水は、排水口を通過して下水道へ流れます。それらの水は、「汚水」と呼ばれます。適切に処理することなく汚水が流れ出ると、汚水が地下水や河川に流れ込み環境に悪影響を及ぼしたり、病気や感染症のリスクが高まる可能性があります。また、不快な臭いや害虫が発生する可能性もあります。下水道はこれらの問題を解決することができ、公衆衛生の向上といった役割を担っています。

ここに表示されている図は、下水道のイメージ図となります。家庭から生まれた汚水は、排水口に流れ、排水管と汚水ますを通過して道路下に埋められた下水道管に流れていきます。

4ページをご覧ください。

下水道管に流れ出た汚水は、下水処理場まで運ばれ、そこでバクテリアなどの微生物の働きできれいな水に処理して、川へ放流されます。播磨町の場合は、加古川市尾上にある加古川下流浄化センターが下水処理場となっています。下水道管の中では、人が歩く程度のスピードで汚れた水が流れていますが、播磨町で排出された汚水は加古川下流浄化センターまでそうしてゆっくり運ばれて行きます。はるばる運ばれた汚水は、下水処理場で22時間から24時間、丸一日程度かけてきれいな水へと処理され、川へ放流されます。

5ページをご覧ください。

これが加古川下流浄化センターの全景写真です。加古川の河口に位置しており、施設の横に流れている細い川が泊川（とまりがわ）、写真左側に大きく見えるのが加古川です。加古川下流浄化センターは兵庫県が運営する施設で、播磨町のほかに加古川市、高砂市、稲美町の下水も処理しておりまして、令和3年度末の整備状況で処理人口は341,700人、処理能力

は一日あたり 159,900 m³となっています。

ここまで、汚水処理の事について簡単に説明しましたが、別冊でお配りしている「下水道のおはなし」という資料にも詳しい説明が載っていますので、後ほどご覧いただければと思います。

次に、下水道のもう一つの役割、雨水処理についてお話します。

6 ページをご覧ください。

下水道のもう一つの重要な役割は、浸水被害対策です。住宅地や道路に降った雨水は、そのまま住宅地や道路上には溜まりません。雨水は、水路や雨水管から雨水幹線に集められ、その後川や海へ放流されます。雨水を適切に雨水管へ流すことによって、浸水被害を防ぐ仕組みとなっています。

7 ページをご覧ください。

これは、今年の3月に工事が完了した古宮第5雨水幹線の一部です。雨水幹線は、事業効果の見込めそうなところを順次整備していています。

一つ戻って、6 ページの図をご覧ください。図の左側の家の横に「雨水貯留タンク」と表示していますが、雨水貯留タンクは、各ご家庭において設置することのできる、雨水を一時的にためておくことのできる設備です。雨天時に雨水をためておくことで、水路に流れる雨水の量を減らすことができ、浸水被害の軽減に繋がる役割が期待されています。では、実際の雨水貯留タンクがどういったものか、写真をご覧いただきたいと思います。

8 ページをご覧ください。

これが、雨水貯留タンクです。各ご家庭でこのタンクの設置数が増えると、水路に流れる雨水を抑制することができ、大雨の際の浸水被害の軽減につながります。ためた雨水は、家庭菜園やガーデニングなどの散水に使用することができ、水道代を軽減することができます。播磨町では、この雨水貯留タンクの設置について、設置費用にかかる金額の2分の1、上限3万円までを、申請により補助しています。上下水道課に展示していますので、お帰りの際にでもご覧いただければと思います。

9 ページをご覧ください。

こちらは、喜瀬川最下流の西側にあります、本荘雨水ポンプ場です。本荘2丁目から4丁目の冠水対策として平成7年に完成し、25年以上稼働しています。本荘地区は地形的に低く、台風などによる高潮と降雨が重なった場合、内水の排除ができなくなることから、ポンプを稼働し雨水の強制排除を行います。

次に 10 ページをお願いします。

こちらは、現在建設中の浜田雨水ポンプ場です。先ほどご説明した本荘雨水ポンプ場の喜瀬川を挟んで、東側、本荘 1 丁目に位置します。

この地区も過去から高潮の影響による被害を受けており、長年ポンプ施設の建設が望まれておりました。ポンプ場の建設と合わせて流入水路の整備も行い、令和 7 年度完成、令和 8 年度稼働を目指しています。

11 ページをご覧ください。

こちらは、マンホールトイレと呼ばれるもので、災害時の避難所などに設置することにより、地震により水道が断水した場合でも、迅速に衛生的なトイレの機能を確保するものです。播磨町では、貯留型のマンホールトイレはありますが、下水道を利用したマンホールトイレは現在未整備です。今後、災害対策の強化の一環として設置を検討している段階です。

下水道の役割について、簡単ではありますが説明させていただきました。

(会長)

基本的な役割ということで今ご説明いただいたのですけれども、ここで質問の時間を少し取りたいと思います。

委員の方で何かご質問ございませんでしょうか。

(会長)

加古川の方に集めて処理をするという形ですよね。この施設はいつ頃から稼働しているのでしょうか。どのぐらい前に出来たのか、その前はどうかだったのか。

(委員)

私の小さい頃は、昔はパイプで加古川へそのまま流していたと思います。加古川では、ウナギがよく釣れると言われていました。

(事務局)

播磨町で下水道事業が始まったのは昭和 62 年度に計画決定をして、63 年度から着手していますので、ほぼ同時期ぐらいかなと思っております。

(会長)

それでは、播磨町の下水道事業について事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

それでは、これより播磨町の下水道事業の概要を、なるべくわかりやすく説明したいと思います。

13 ページをご覧ください。

これまで、下水道には汚水と雨水が流れていることを説明しましたが、汚水と雨水を同じ下水道管で下水処理場へ送る方式を「合流式下水道」と呼ぶのに対し、汚水と雨水を別々の管で流す方式を、「分流式下水道」と呼びます。分流式下水道の場合、汚水は処理場へ流れ、雨水は直接川や海に放流されます。播磨町は、「分流式下水道」を採用しています。合流式下水道と分流式下水道には、それぞれメリットとデメリットがあります。

まず、合流式下水道は、整備する管きょが一つで済むため、低コストであることや、ガス管や水道管といった他の埋設物との競合が少なくなり施工が容易であることがメリットとなります。工事が容易で、早期に普及させることが出来るため、大都市など早くから下水道を整備した地域でよく用いられています。

その一方で、雨天時に雨水の量が一定以上になると、汚水が雨水と一緒に川や海に放出されることがあり、水質汚濁の原因になりやすいことがデメリットとなります。

分流式下水道は、汚水管と雨水管をそれぞれ布設する必要があるため、合流式に比べて整備コストが高くなります。その一方で、合流式下水道では問題となる、大雨の際に汚水が直接川や海に流れ出るようなことはありません。

播磨町の場合、汚水は加古川市の尾上にある兵庫県が運営する加古川下流浄化センターまで下水道管を通して運ばれ、そこできれいな水にする処理を行うと説明しました。播磨町のように、独自に下水処理をする施設を持たず、県の施設へ接続して下水処理する方法は「流域関連公共下水道」と呼ばれます。播磨町は、兵庫県に対し、加古川下流浄化センターの維持管理に要する費用や建設投資にかかる費用を「負担金」として支払っています。播磨町は、人口3万5千人ほどの小さな町ですので、単独で処理場を設置するよりも流域下水道に接続した方が効率的です。また、町域が狭いため、下水道管の設置も無駄が少なく効率的に行うことができていることは、播磨町の特徴となっています。

14 ページをご覧ください。

本町の下水道事業は、加古川下流流域関連公共下水道として、昭和62年度に内陸の510ヘクタールを都市計画決定し、平成22年度に市街化調整区域の88ヘクタールを追加し、現在598ヘクタールを都市計画決定しています。

当初は、110ヘクタールを下水道事業計画区域とし、昭和63年度から整備工事に着手

しました。以後、順次整備区域の拡大を図り、平成25年の変更認可において、528ヘクタールに拡大し、更に平成28年3月に市街化調整区域を編入し598ヘクタールに拡大しました。

汚水の整備状況は、污水管渠を約136km整備しており、流域下水道の稲美幹線と播磨幹線に接続しています。市街化区域の整備は土山駅北など一部を残し完了しており、現在、調整区域である北古田及び大中地区並びに東野添地区を整備しています。令和9年度を目途に住宅のある路線はほぼ完了する見込みです。

令和4年度末の行政区域内人口は34,806人、処理区域内人口は34,413人、人口普及率は98.9%となっています。お示ししている地図に緑色で着色しているところが、実際に下水道に接続することのできる地域となっています。

15 ページをご覧ください。

これは、雨水の計画一般図になります。

文字が小さく見えにくくなっていますが、太い線で示しているところが雨水幹線となっています。

雨水については、現在古宮地区の第5雨水幹線の整備を進めており、今年度に重要路線まで完了する見込みとなっています。古宮第5雨水幹線は、浜田公園東口から古宮大池に伸びている太い線になります。来年度は、雨水幹線ではありませんが、先ほど説明した浜田雨水ポンプ場へ流入する雨水きよの整備に着手します。町全体の令和4年度末都市浸水対策達成率は65.0%となっています。

次に、下水道事業会計の会計処理方法について説明いたします。

16 ページをご覧ください。

下水道事業は、事業で得た収入を主な財源とする独立採算制となっており、地方公営企業法によって定められた複式簿記による会計方式を採用しています。これを、公営企業会計といいます。下水道には污水と雨水がありますが、独立採算の原則は污水処理に適用され、污水の処理に要する経費は下水道使用料で賄うものとされています。しかしながら、播磨町は污水処理に要する経費については、国が定めた基準に基づく基準内繰入金と下水道使用料だけでは費用を賄うことができず、一般会計からの基準外の繰入金に頼っているのが現状で、独立採算による経営が行えていない状態となっており、繰入金に依存しない経営を目指していく必要があります。一方で、雨水排除に要する経費については、雨水は自然現象に起因し、排除による受益が広く及ぶことから公費により負担されています。次に、播磨町の管路の布設状況について説明します。

17 ページをご覧ください。

左側のグラフは、汚水管路の整備状況を年度別に表示したもので、右側のグラフは雨水管路の整備状況を年度別に表示したものとなります。汚水管路の整備は平成 5～16（1993～2004）年度に布設したものが多く、また雨水管路整備は昭和 53～54（1978～1979）年度に大半の管路を施工している状況となります。これらの管路は供用開始から 20～30 年程度経過していますが、管きょの目標耐用年数（75 年）に鑑みると、今後すぐに更新投資が必要になることは想定されません。

18 ページをご覧ください。

これは、ひと月に 20 m³使用した場合の県内各市町の下水道使用料をグラフ化したものです。県内平均 2,779 円に対し、播磨町は 2,030 円となっており、使用料水準は他団体と比べて低いことがわかります。現在の播磨町の下水道使用料は、平成 22 年度に料金改定を行っており、今の料金水準となっています。

ちなみに、下水道を使用した量はどうやって決まるかと言いますと、下水道を使用した量イコール水道の使用量となっています。下水道使用料金は、水道料金と一緒に徴収されています。

次に、経営指標から播磨町の経営状況を分析します。

19 ページをご覧ください。

このグラフは、兵庫県が公表した経営比較分析表と呼ばれるもので、播磨町の経費回収率についてお示ししたものになります。経費回収率とは、使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標であり、比率が 100%を下回っている場合、汚水処理に係る費用が使用料による収入で賄われていない状況を示しています。播磨町の令和 3 年度決算数値は 74.31%（令和 4 年度は 73.84%）で、類似団体との比較においても数値が下回っており、回収すべき経費を使用料収入で賄うことができていません。

20 ページをご覧ください。

こちらのグラフは、経常収支比率を表示しています。経常収支比率とは、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示している数値となっています。数値は高いほどよく、播磨町の令和 3 年度決算数値では 109.95%（令和 4 年度は 111.77%）となっています。経費回収率のところでは、使用料収入で経費を賄うことができていないと説明しましたが、経常収支比率が 100 を超えているのは一般会計からの繰入金があるからです。事業が成り立っているのは、一般会計からの繰入金があるからということが言えます。

以上、播磨町の下水道事業について説明いたしました。

(会長)

ありがとうございました。それでは、ここで質問の時間をとりたいと思います。ご質問はございませんか。

(委員)

この平均値というのは、兵庫県の平均値ですか。

(事務局)

こちらは、播磨町と同程度の規模の団体の平均値となっています。

(会長)

19 ページ 20 ページの表ですが、平成 29 年度に 0 って書いてあるけど、0 なんですか。

(事務局)

播磨町の下水道事業が、平成 30 年度から公営企業会計になっていますので、平成 29 年度にそういった指標がありませんので数字が出てないものとなっています。こちらは総務省の様式で、そのまま出てしまっていますが、令和 4 年度の決算値が入ると平成 29 年度は消えます。

(会長)

0 っていうのはおかしいんですよ。バーで示されてると言うことは空欄なはずなんですよ。グラフの作り方としては、修正した方が良くと思います。

(委員)

汚水と雨水の工事は大体終わりましたよね。

(事務局)

汚水がほぼ終わっている状況で、あと、市街化調整区域の家が点々としていますが、そういうところを整備しているような状況です。雨水に関しては、一般的なおうちでしたら道路側溝がその雨水の役割を果たしています。

それとは別に、15 ページを見ていただきますと、こちらが下水道で事業を進めている雨水幹線というものでして、先ほど言った各道路側溝とかの水がどんどん集まってきて、一定の量に達するとこちら雨水幹線に流れます。赤マーカーが入っているところが整備済み、例えば野添の方でしたら、区画整理とあわせて整備を行ったり、先ほど説明した古宮の方の流量が多いところから、もしくはその過去に冠水被害があったようなところを重点的に先行して工事を進めてきております。上下水道課で管理しているのは、この 15 ページにある雨

水幹線、こちらが該当します。

(委員)

播磨町の中で、町道と県道に分かれていますね。町道については町の方で工事をやられてるけど、県道についてはやってないよね。たまたま工事をやってたときに聞いたら、ここは県道やから何も言われませんでしたので。道路側溝に草木などが溜まって、その状態で雨が降り一度溢れたことがある。

(事務局)

適切に管理してないと、やっぱり土砂が堆積して草が生えたりというのもあるので、上下水道部局ではないんですけど、役場として例えば道路の方から県にアクションを起こして要望するとか、その辺はできると思います。

(委員)

浄化槽なんかの工事もね、直接流せるような形で工事をやってくださいという指導があったけど、それは大体進んでるわけですね。高齢者住宅など、そのままの状態のが何件か見受けられますが。

(事務局)

各ご家庭のご事情で、家の建て替えの計画があるとかいうことで、接続されてないという方も多少おられます。多いのが、単独浄化槽といたしまして、トイレだけを処理する浄化槽がある家が多いです。お風呂とか台所とかの水はそのまま道路側溝に流れているような状況ですから、環境には良くないということで切り替えをお願いしているところではあります。

(会長)

お風呂とか、トイレ以外の水はそのまま流れてるから環境汚染してますよってというのが伝わればいいんですよ。

(事務局)

切り替え費用は各ご家庭のご負担にはなります。トイレの改造なしでも平均20~30万はかかると思います。

(会長)

そうすると結構負担が大きいですね。でも、それが課題の一つなんですよね。先ほどいただいたこのカードですが、「おすい」と書いてあるんですけど、「うすい」カードというものがあるのでしょうか。

(事務局)

雨水カードはないです。デザインマンホールはPRのために、三つだけ作っています。道路に設置してあるのは、菊と大中遺跡をデザインしたもので、それもカラフルじゃないのになります。

(会長)

続きまして、委員の方も一番関心のあることだと思いますけれども、今後の課題について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

22 ページをご覧ください。

今後の課題について説明します。

一つ目は、少子高齢化による人口減少社会の到来です。

本町の人口予測は、国立社会保障・人口問題研究所に示された 2020 年～2060 年までの想定される予測人口を採用し、そこから水洗化人口を予測しています。水洗化人口とは、下水道の処理区域内において実際に下水道に接続し、使用している人口のことです。令和 42 年度（2060 年度）には令和 4 年度（2022 年度）比 22%減の 24,258 人程度になると想定されます。水洗化人口の減少は、使用料収入の減少に直結し、将来的に経営を圧迫することになります。

23 ページをご覧ください。

二つ目は、経営状況に関する課題です。

先ほども説明しましたが、播磨町の下水道事業は一般会計からの繰入金に頼って事業を行っており、繰入金なしでは事業が成り立ちません。よって、繰入金に頼らない経営を目指す必要があります。

経費回収率については、独立採算の原則から 100%以上であることが求められていますが、令和 4 年度決算値でも 73.84%と 100%を下回っており、経費回収率を向上させる必要があります。

24 ページをご覧ください。

これは、平成 30 年度に策定した播磨町下水道事業経営戦略の中でお示しした一般会計繰入金の推移を示したグラフになります。2019 年度は、一般会計からの繰入金が約 5 億 2 千万円ありましたが、このグラフでは 2032 年度頃に 2 億円を切る予測となっています。今後、償還金の減少に伴い、一般会計からの繰入金は急速に減少していく見込みとなっています。先ほど、繰入金に頼らない経営を目指す必要があると言いましたが、それについては今後自然と解消に向かう予想となっています。

25 ページをご覧ください。

三つ目は、維持管理に関する課題です。

管路については、今後すぐに更新投資が必要ではありませんが、更新ピークの時期が到来すると更新投資額は短期間で巨額になることが想定されるため更新時期の分散や投資財源の計画的な積み立てが必要になります。この図では、2050 年代に更新投資のピークを迎える予測となっています。

26 ページをご覧ください。

最後に、経営戦略の概要について説明します。

経営戦略とは、収益・費用に関する現状の「見える化」・将来の「見える化」と財務・投資バランスを取るための施策立案を合わせたものです。

長期的に見て、下水道事業の「収益」と「費用」のバランスを取ることが重要であり、経営戦略では、現状どうなっているか、将来どうなるかの「見える化」を行い、バランスを取るための経営改善施策を立案することが求められています。

下水道事業は、料金収入をもって経営する独立採算を基本原則としながら、住民に欠かすことができない重要なライフラインとして重要な役割を担っていますが、全国的に保有する資産の老朽化に伴う大量更新期の到来や人口減少等に伴う料金収入の減少等により、経営環境は厳しさを増しており、将来にわたり安定的な下水道サービスを維持していくために健全な財政運営及び計画的な更新事業の実施が求められています。

経営戦略は、投資とその財源に生じるギャップを解消するために、改善施策を講じた上で投資計画と財政計画を収支均衡する形で策定します。

お配りしている資料の中に、平成 30 年度に策定した「播磨町下水道事業経営戦略」がありますが、次回の播磨町上下水道運営委員会では、ヒト、モノ、カネ視点での課題を整理した、播磨町下水道事業経営戦略の改定案をお示しいたします。本日説明した播磨町の下水道事業の概要などを踏まえ、わかりやすい経営戦略となるようご意見いただければ幸いです。以上、事務局からの説明を終わります。

(会長)

ありがとうございました。それでは質疑応答ということで、質問のある方いらっしゃったらお願いします。

(委員)

水道がありますよね。その使用量によって下水の使用量が決まるわけじゃないですか。私、兄弟が違う市町村にいるんですけど、播磨町安いよって言われるんですね。上水 100 で

あれば下水 50 とか、そういう比率っていうのも一律で決まってるんですか。

(事務局)

決まってるわけではないです。水道は水道でいくりにするのが適正か、下水は下水でいくりにするのが適正かでそれぞれ考えます。

(事務局)

水道料金については、令和 5 年 4 月に改定して料金が上がっています。改定後の料金で、県内の平均より若干下から同じぐらいかぐらいになっていると思います。下水道使用料はどっちかという安い部類に入っているの、合わせると若干安いと言えるのかもしれないです。

(委員)

一般会計からお金が入っているから、その分安くなっている。

(会長)

20 立米使ったらいくらなのか。神戸市、加古川市、高砂市、播磨町と、そのぐらいで並べてみると、播磨町の位置づけというのがよくわかるのかなと思います。

(委員)

将来的には、多分もっと上がるんだと思う。水道代がこの 4 月から上がりましたが、下水は上がっていない。将来的には、下水道の工事もかなりでてくる。人口が減るため、施策としてどこかで料金を上げないといけないという話も出てくるんだと思う。

(委員)

料金が上がる時は、あそこは安いつて言う人が必ずいて、反対する人はできますよね。そのときに、どういうふうにして納得させるかっていうのはやっぱり行政力だっているのはありますよね。

(会長)

今回の会議は、あくまでも認識を深めるということで、下水道に関してはまだ新しく、持つからだいぶ先の話だと。下水がどういう風に処理されているのか、簡易処理だと風呂の水がそのまま流れてしまっているというような事を、知っておく必要があるのかなということだと思います。

(委員)

幸いなことに、ちょうど2050年ぐらいの管路の更新時期というのが、一般会計の繰り入れがかなり低くなって余裕が出てくるということで、急に値上げとかいうことではなく今後どうしようかということを考えていかなければいけませんねという話だと思います。

(会長)

ただ、ものすごく大きな地震が起きて下水管が破損したということになれば、それはそれでやらなきゃいけないし、そのときに基本100%その事業で賄うという、いろんなところからお金を持ってこないよっていう話なので、そのルールとか基本的な考え方をみんな共有する必要はあるかなと思うんですよね。ですから、こう言った資料について多くの人が理解して、疑問があれば質問をして理解を深めて、お知り合いの方とかにこんななってるのよっていうふうに話ができればいいのかなってところが多分今回の目的だと思います。

先ほどの説明の中で、100%を目指しているけれども播磨町の場合だと、令和4年度の水洗化率が73.84%ということだから、100点満点で74点ぐらいってところなので、もうちょっと頑張れるのかなという状況にあると。これを踏まえて、次の回は今後どうやっていくのか、今後どう見ていくのかっていうことを戦略の素案というんでしょうか、これを町の方で作っていただいて、それについてまたパブリックコメントを実施して、委員以外の皆さんのご意見をいただくというそういうことになっているということですので、本日の目的としては、こちらの説明の方ご理解いただければと思います。

それからあと、先ほど下水道の料金って一体、実際いくらになってるんだらうっていうふうなご意見をいただいたので、また次回のときに調べていただいたものを教えていただくと。

(委員)

一般的に比べて、播磨町は安いと思いますね。

(事務局)

今日の説明の中でもあったんですけど、やっぱり町域が狭くて無駄な管が少ないというのはメリットでありますし、下水なんかでしたら、自前の処理場はなくて、広域で処理するところが特徴的なところで他のところより有利にできる可能性は十分あるというふうには考えています。

(会長)

いろいろご意見をいただきましたが、一言ずつ何か感想を言っていただけるとありがた

いなと思うんですけれどもいかがでしょうか。

(委員)

今まで無頓着でしたが、こういうことってなかなかわからなかったので、これからまた勉強させていただけると思います。ありがとうございます。

(委員)

上下水道に関しましては、よくやってはるなという感覚を持ってました。細かく数字を見ていかなければいけないんですけれども、改めて勉強させていただきます。よろしく願いいたします。

(委員)

できましたら、次の機会までに近隣市町の状況をちょっと教えてもらいたい。これじゃ何もわからない。

(委員)

いろいろ勉強させていただきたいと思います。

(委員)

私、近くに公園があります。そこにお手洗いがあって、水道があるんですけど、毎日きちんと水質検査に来られるんです。本当にありがたいなと思うのは、播磨町の方だけじゃなく明石の方とかも遊びに来られるんです。あれはすごくいいなと思う。お金はかかるかわかりませんが。

(事務局)

水質検査も全ての公園をしているわけではなくて、どこの水を水質検査するかは決めています。そこで採水してそれで異常がないかどうかというのをチェックしております。

(会長)

ありがとうございます。それでは、次回は今後の戦略を載せていただくことになるんですけれども他に質問がないようでしたら、そろそろというような時間になりますので、本日の議事、司会の方、事務局にお返しいたします。

(事務局)

竹川会長、円滑な議事進行ありがとうございました。また、委員の皆様には熱心なご審議

を賜り、ありがとうございました。

続いて、次第の「7 その他」で今後のスケジュールについて説明させていただきます。

委員会は、次回、令和6年の2月頃に開催させていただく予定です。

本日頂戴しました委員の皆様のご意見を参考に、下水道事業経営戦略の改定案について検討させていただき、次回の運営委員会で提示させていただきます。その内容について、またこの委員会でご審議いただき、ご意見等を頂戴したうえで、改定案を取りまとめたいと考えています。

スケジュールの概要は以上です。

次回の開催日については、委員の皆さまに改めてご都合をお伺いして、決定したいと思います。開催のご案内につきましては、改めて文書でお知らせいたしますので、その際にはご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、本日の会議の議事録につきましては、委員の皆様にご確認いただいたのち、個人名等は伏せたうえで後日、町のホームページで公開させていただきます。

委員の皆様におかれましては、今後ともご指導とご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第1回播磨町上下水道運営委員会を閉会いたします。

皆様、本日は長時間ありがとうございました。